

# 地上の星(70) ゴスペルホール「聖書を読む会」

特別企画(77)

## ライオン株式会社創業者 小林富次郎物語



歯磨や石鹼の製造販売で有名な株式会社ライオンの創始者小林富次郎(1852-1910)は、非常に熱心なクリスチャンとして知られている。それは富次郎が36歳の時、神戸で出席した基督教の演説会がきっかけであった。

講演の途中で一部の若者たちが大騒ぎをして妨害し、場内は一時騒然となった。そこに出てきたのは主催者側の柔道の猛者であった。だれもが、力づくで妨害者をつまみ出すと思っていたが、何とこの大男は頭を下げて静かにしてくれと頼み続け、ついに騒ぎは静まったのである。

これを見た富次郎は「これが基督教というものか」と深く感動し、熱心に教会に通うようになり、やがて長田時行牧師から洗礼を受けることになった。

その後、全財産をはたいてマッチ製造の事業を始め、宮城県石巻に大きな工場を建て、外国製の機械を導入し、北海道で軸木とする木材を購入したが、予期せぬ洪水で一年分の原木が流されたばかりか、工場は水浸し。金策に奔走したが、誰も助けてくれず、肉体も病魔に冒されていった。進退窮まれば、と自殺を決意し、ある晩、北上川に身を投げようとしたその瞬間、稲妻のように聖書のことばがひらめいた。

「すべての訓練は、当座は喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられた者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」(ヘブル人への手紙12章11節)

これは神戸の長田牧師が、かつてハガキに書いてくれたことばであった。富次郎はこれによって自殺を思いどまり、再び事業に取り組む勇気を奮い起こし、東京の神田に石鹼やマッチの原料取次ぎの「小林富次郎商店」を開設し、それが後にライオン株式会社へと発展したのである

今回は、収益の多くを世に還元し、石井十次の孤児院経営を陰で支えたクリスチャン実業家、小林富次郎の生涯を、その自伝をもとにご紹介いたします。

### 記

1. 日時 : 2018年7月13日(金) 10:30 AM より
2. 場所 : ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師 : 尾崎富雄(ゴスペルホール代表)